

目的 食生活の社会化は年々進む傾向にあるが、その実態を明らかにし、主婦がそれをどのように考え、またどこに問題があるかを見出し、今後の合理的な食生活の運営に与えることを目的とする。

方法 アンケート方式をとり主婦636名を調査の対象とした。アンケートの内容は、加工食品の利用状況、冷凍食品のとり入れ方、家族のおやつ及び外食、食品の共同購入等についてである。調査対象を女性のライフステージ(1. 末子乳幼児, 2. 末子小学生, 3. 末子中学生以上, 4. 夫婦のみ)にわけ職業の有無別による考察をこころみた。

結果 加工食品の利用状況については、職業別による有意差はみられなかった。加工食品利用の効果については、それを用いることにより料理の品数をよやし、食卓が賑やかになると考えている者がかなり多く、有職者に多い。冷凍食品を安心とは思わない人は多く市販のものではなく、家で冷凍している人は各ステージとも半数には及ばないが、種類はかなり多い。家で冷凍している理由としては、忙しいからしるべいといる人が多かったが、このあたりに経営上の問題があると思われる。家族のおやつの手作りについては、家族がよぶからという理由が最も多く有職者の方が強く感じている。おやつは、できれば手作りにしたいという意欲がうかがわれ、外食は昼食の場合有職者に多く、デイナーサービスの経験者は有職、無職者とも少なく安心とは思わないと感じている人は有職者に多く、材料に無駄がまると感じている人は無職者に多い。概して各内容とも有意差のみられたのは(2)と(4)のライフステージであった。